

■米国債と長期金利

現在の日米の長期金利は低いところで動いています。しかし、アメリカの長期金利はやがて跳ね上がります。これがアメリカの危機。米国債暴落が起きたら、今年の暮れから来年にかけてアメリカはひどいことになっていきます。景気対策で70兆、80兆と金融機関に注入し、再度財政出動をやるとうとしています、苦しい台所事情。だから日本、サウジアラビア、更には世界一の米国債保有国である中国から更に買わせるといふ仕組みで世界の大きいところは動いているのです。「3.6%金利を付けるからいいじゃないか」という理屈です。日本には金利が付かず、国内からお金が流れ出る仕組みで金融というものは動いているのです。

■世界中にひしめくデリバティブ（金融派生商品）

日経平均株価は20年前のピーク時は38,915円をつけました。アメリカのイラク侵攻の次の月2003年4月に7,607円まで下落しました。この後、ブッシュ前大統領と小泉元首相がクロフォードランチで「お泊り同盟」をし、戦争経済で日米の株価を吊り上げたのです。ところが、その前から既にサブプライムローンを組み込んだ証券化商品を山ほどつくって、この崩れが表面化して株式市場は急落したのです。今でも爆弾を抱えています。RMBS、CMBS、CDO、CDSといわれるデリバティブの崩れが今から起こります。

今年は11月にニューヨークダウと日経平均株価が大きく崩れるでしょう。私は予測します。3年以内に日経平均株価は瞬間的ですが、5,000円を割り込みます。理論株価としてもそうなります。しかしながら、その後、株価は再び戻していきます。2012年がアメリカのドン底になるでしょう。日本は2、3年を辛抱すれば良いことがあるでしょう。

■金（ゴールド）の価格は上昇していく

金は中国もインドもブラジルも一生懸命買っています。なぜなら、先述したように、証券化商品、株式、国債が暴落していくのです。最後は実物経済です。私が1999年に「買え買え」と言った時は、1g865円でした。その後すぐに1g1,200円になりました。最近では3,500円程まで上昇しました。今後も金は上昇していきます。1980年に1g6,495円があるのです。必ずここを抜いてきます。私はかつて、イギリスで金の取引をしていたので、今後のトレンドが手に取るように分かるのです。

■金価格とドルの関係 プレトン・ウッズ合意

1944年7月に既に戦後の世界体制の話がありました。イギリス代表とアメリカ代表が大ゲンカしながら世界銀行とIMFをつくったのです。この時に金1オンス(31g)は35ドルと決めたのです。今でも政府と政府の取引は必ずこの価格で行われるのです。金1gは1ドルと決めました。ところが、今や金1gは35ドルとか

40ドルです。35分の1になってしまったのです。1ドル360円だったのが30分の1になったと考えれば360円を30で割ると12円です。

ですから、1ドル12円の理論が成り立つのです。

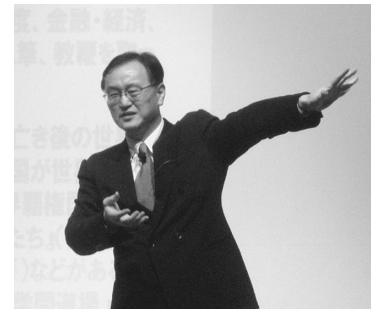
■「ドル亡き後の世界」は新興4大国BRICsが創る

ドル亡き後の世界は、ブラジルのルラ大統領、ロシアのメドヴェージェフ大統領、インドのシン首相、中国の胡錦濤（こきんとう）国家主席らが創ります。彼らは、昨年6月に初めて会談し「米ドルに代わる新たな国際通貨」を公然と話し合いました。その時カザフスタンのアルマティ（世界の中央銀行ができるであろう街）で世界の20カ国の中央銀行の総裁が集っています。この事実は重要で、私は7月に行き情報を取ってきました。もうそういう風に世界が動いて行くのです。

■躍進著しい中国の最高指導者と世界のメディア王

今の中国の首脳は鄧小平（とうしょうへい）が育てた胡錦濤（こきんとう）国家主席、温家宝（おんかほう）首相ですが、非常に立派な人で2012年10月までこの二人がやります。その後を継ぐのが、私が5年前から言ってますとおりの習近平（しゅうきんぺい）と李克強（りこくきょう）ですが、国家主席になるのは習近平でしょう。ただし、鄧小平はその10年後、2022年からは周強（しゅうきょう）と胡春華（こしゅんか）を選んでいきます。

中国が伸びていくのは当たり前です。ルパート・マードックは覚えておいてください。オーストラリア移民のアメリカ人実業家で、もう10年前から中国に来ています。もう中国だと分かっているのです。日本では孫正義氏と関係が深いのです。なぜすごいのか。世界の放映利権は彼がもっているのです。現在の世界皇帝デイヴィッド・ロックフェラーがオーナーであるシティバンクを助けるとも言われています。



■日本国に一番必要なこと「デモクラシー」

今、日本国で民主党が政治主導と言っているのは当たり前なのです。国民に選ばれた代表にパワーを与える。権力を握らせる。それで国をダメにするようなら選挙で国民の代表を選び直す仕組みのことをデモクラシーというのです。民主党はイギリス式の制度を導入して「官僚に答弁させない」これが正しいのです。

それでも、民主党がダメだったら、また新しい保守党をつくらなければならないのです。私たちは、自分たちの運命を自分たちの脳で決めることができる自立する国民国家になっていかなければならないのです。